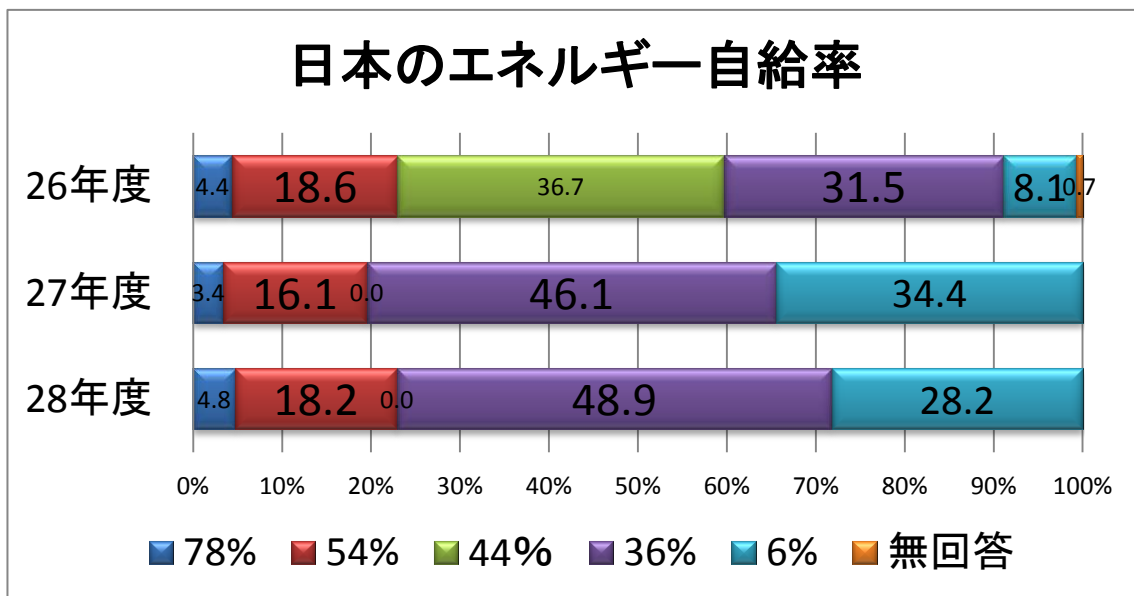


日本のエネルギー自給率は6%

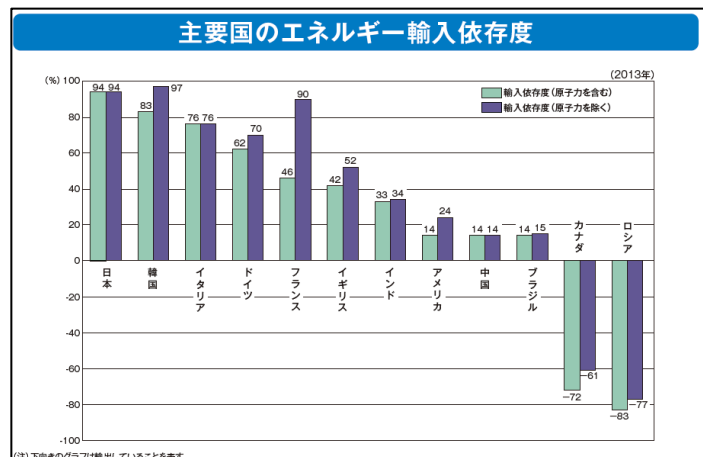


10月に実施したアンケートでは、日本のエネルギー自給率は36%と思っている生徒が、半数近く(48.9%)いることがわかります。正解は6%です。日本のエネルギーは、その94%を、外国からの輸入に頼っています。下のグラフを見てください。他の国と比べても、日本の自給率がかなり低いことがわかります。

エネルギーは、今の生活にはなくてはならないものです。エネルギー教育モデル校生徒なら、この事実ぐらいは知っておいてほしかったのですが残念です。

3年間の経年変化を見ても、昨年度は34.4%が正解だったのですが、今年度は3割を切ってしまいました。

6%という数字より、日本は9割以上を外国に頼りながら、エネルギーを確保しているという事実を覚えておきましょう。



授業の中でエネルギーを学んでいます

モデル校3年目ですが、みなさんは、いつエネルギーについて学習しているのでしょうか。2年生は、11月の校外学習やその事前の学習でたくさん学びました。全校生は、このモデル校通信を読んだり、文化発表会や70周年記念式典で生徒会の発表を聞いたりしています。

さて、授業ではどうでしょうか。「今日は、エネルギーに関して学習しましょう」と始まる授業もありますが、ほとんどの授業は、教科書にそって、いつの間にか、エネルギーに関連する学習をしています。例えば、3年生は、理科の授業で「エネルギー資源とその利用」という学習をしました。まさに、エネルギーの授業とわかります。それでは、社会科で、世界の鉱山資源を学習したとします。これも、エネルギーに関連した授業です。家庭科で、地産地消の食品を調理してみましょと習えば、これも、食品輸送のエネルギーを節約することにつながります。などなど、いろいろな場面で学習しています。

最近行われた授業場面を紹介しましょう。

1年生の社会科では、地理的分野で、ヨーロッパを学習する際、「地球温暖化を防ぐために」というテーマで学習しました。【右写真】



2年生では、理科の授業で、電流の学習の後、「身のまわりのエネルギー」というテーマで、実験をしながらエネルギー変換の学習をしました。【右写真】



3年生では、理科の「エネルギー資源とその利用」という学習で、放射線について学びました。右の写真は、学校の正面玄関前の星座盤の放射線量を測定しているところです。



このように、授業の中で学習している例がたくさんあります。3学期は、少し意識して、授業を受けてみてください。